

みそぎ池

浄め（みそぎ、またははらえ）は神道の中心的儀式で、崇拜の前に心と体の両方を浄めるために行われ、神社では、入り口で手や口を洗って行われます。この慣習は、兄弟姉妹であるイザナギとイザナミという神が日本列島の島々とそこに住む神々を創造するという、日本の国生み神話に見られます。イザナミは任務が完了する前に亡くなり、イザナギは妹を黄泉の国から連れ戻そうとしますが、失敗し、生きている者たちの世界に戻る際、水に身を浸して死者の世界の汚れを洗い落とします。この浄めにより、神道で祀られるさまざまな神々が生まれますが、中でも最も重要な三神に、太陽の女神であるアマテラス、月の神であるツクヨミ、すなわち夜の主、そして、海と嵐の神であるスサノオがいます。

現在最古の文献である古事記の中で、イザナギの浄めは日向県（現在の宮崎県）で行われます。8世紀の学者たちが当時の首都だった奈良で日本の神話を最初に編纂した際に、日向を舞台として選んだのはおそらく、そこが南東に面する遠方であり、昇ってくる太陽に、ひいては神々の領域に最も近い場所と見なされていたためでしょう。浄めは常緑植物が育つ緑豊かな平野に面した河口で行われます。この場所は現実世界の特定の場所ではなく、永遠の命を象徴していましたが、後にここ宮崎市の「みそぎ池」など、日向のさまざまな場所と結び付けられました。